

inancim
私の信仰
inancim



单元
7





預言者たちへの信仰

1. 預言者であること、そして預言者に求められるもの
2. 預言者たちの特性
3. 預言者たちの役割
4. 奇蹟と驚異
5. 預言者たちの人生の描写



単元について

この単元では、

イスラームの信仰の基本の一つである、預言者たちへの信仰について述べていきます。

- 預言者という存在が必要とされています。
- アッラーと人間の間の使者を預言者と言います。
- 人間は理性によって、アッラーの存在とその唯一性、そしてその崇高さを理解することができます。しかし、アッラーについて預言者たちが啓示を通して教えているようなことは知ることができません。
- 人間はアッラーに対しどのように崇拜行為を行うのか、あるいは来世に関することなどを自らの理性によって知ることができません。
- 預言者たちは、正しく価値のあるものを見つけ、識別し、神の命令や真実を教え、高い徳を身につけるための道を人間に示します。
- 奇蹟（ムジザ）とは、預言者たちが預言者であることを示すために、アッラーのご援助によって行った超常的な現象を奇蹟と呼びます。
- 預言者ではない人が行った超常現象を奇蹟（ムジザ）と言うことはありません。
- カラマ（驚異）とは、預言者たちに心から結びつき、そのスンナ（慣行）に正しく従うアッラーの選り抜かれたしもべである人々が示す超常的な現象です。
- クルアーンは、預言者たちの生き方を描写し、その卓越した特性を強調しています。

この単元では例として、

- 預言者イブラーヒームのアッラーへの探求
- 預言者ムーサーの同行者と英知に満ちた出来事
- 預言者アイユブの病に対する忍耐
- ユースフの物語の愛情の例
- 預言者ユースフの役割と責任意識
- 預言者イーサーの人格と預言者ムハンマドの未来に関する吉報が示されています。

学習目標

この単元を終えたときには、下記のような目標に到達することができます。

1. 預言者の役割が何であるかを説明する。
2. 人間が預言者を必要としていることを理解する。
3. 預言者たちの特性を説明する。
4. 預言者たちの役割を説明する。
5. 奇蹟と驚異の定義を説明する。
6. クルアーンに登場する預言者たちがどのような特質によって紹介されているか説明する。

学習時には

1. 単元の冒頭に掲げられた目標に到達できているかどうか確認しましょう。到達できていない項目をもう一度読んでみましょう。
2. 単元の中で取り上げられている研究、観察は必ず実行してください。
3. 単元を学ぶ際には、教科書を読むだけで十分とししないでください。巻末にあげてある文献の中で入手可能なものは読んでみてください。

1

預言者であること、そして預言者に求められるもの

預言者への信仰

- 崇高なる教えイスラームの基本的な信条の一つが預言者たちへの信仰です。
- この信条の基本は、アッラーが人間の中から選ばれた預言者たちを正当に評価し、彼らがアッラーから得て私たちに伝えるすべての知識が正しく真実であることを認めることです。
- アッラーはクルアーンで、すべての預言者を区別することなく信じなければならないと明示されています。
- 預言者たちの何人かを信じ、何人かを信じないことはイスラームの教えを否定することであると見なされました。(雌牛章第285節、婦人章第150-151節参照)

預言者たちへの信仰とその意味

- 預言者 (ペイガンベル) という言葉は、使者、知らせをもたらす者というペルシア語に由来します。アッラーが人々の中から選ばれ、啓示を通して命令や禁止事項を人々に伝えるという役割を与えられた人のことです。アラビア語では、預言者という言葉に対応するものとして、使者、遣わされた者という意味でラスール、もしくは知らせをもたらすものという意味でナビーという言葉が用いられます。
- ラスール 新たな啓典及び新たな教えと共に人々に遣わされた預言者を指します。
- リサーラ及びヌブーフ 預言者性、預言者であることを意味します。
- 預言者性とは、アッラーと人間とを結ぶ使者の任務のことです。預言者性は人間の努力や働きによって獲得できるものではありません。アッラーによって与えられるものです。
- アッラーは人々の中から、望まれる人を預言者として選ばれます。
- アッラーは預言者を、その人々の属する民族の中から選ばれます。
- このことは、人々が啓示を理解し、受け入れることを容易にします。「これがアッラーの恩恵である。かれの御心に適う者にこれを与える。アッラーは偉大な恩恵の主であられる」(合同礼拝章第4節)
- 人間の歴史を通してアッラーは人間を支えや導きのない状態のまま放っておかれたことはありませんでした。そして集団ごとに、必ず一人の預言者を遣わされました。「それぞれの民に対して、使徒が (遣わされたので) ある」(ユーフス章第47節、蜜蜂章第63節)



「(またこれまでも) どの民にもかれらの間に、一人の警告者が行かなかったものはない」(創造者章第24節)「しかし、アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘である。本当にアッラーは全知であられる」(部族連合章第40節)



考えてみましょう

なぜすべての民に預言者が遣わされたのでしょうか。

人間の理性と預言者たち

- 人間は理性によって、アッラーの存在、その唯一性と崇高さを知ることができます。しかし、そのことについて預言者たちが啓示で伝えたような知識を知ることができません。
- アッラーは下されたすべての啓典で人間に、ご自身の存在、その特性や御業について教えられ紹介されたのです。
- クルアーンにおいても、そのことについては十分な知識が与えられ、アッラーをどのように信仰すればいいかについて、しっかり道が示されています。
- アッラーにどのように崇拜行為を行えばいいか、また来世にまつわる事柄について、人間は理性をもってしても正しく知ることができません。特にこのような重要な事柄について、人は預言者たちの知識と導きを必要とするのです。

人間の責任

- 人間は、考えたこと、口にした言葉、そして行動に責任を負います。
- 人間はアッラーの前において何が正しく益のあるものであり、何が誤りで罰をもたらすものであるかを、ただ預言者たちから学ぶことができます。ハラール（許されていること）とハラーム（禁止されていること）、ファルド（義務）、唯一神信仰や教えへの憎悪といったものが何であるかを預言者たちが人々に教えるのです。

預言者たちの役割

- 預言者たちは、人々が正しく益のあるものを見つけ、善悪を区別し、道徳的な成熟に到達するための道を示しています。それによって人は、アッラーのご満悦を得て、現世と来世で救われることができるのです。
- 預言者たちは、アッラーからもたらされた命令や禁止事項、奨励や説明を人々に伝えることによって、人々が我執から生じる欲望、悪い環境や悪質な文化、因習などの圧力に屈することのないように、また真実に向き合おうとしないよう努めました。
- 預言者には吉報を伝え警告を発する役割があります。彼らは前もって民にあらゆる事柄について警告し、待ち受けている様々な危険について教えます。



「使徒たちに吉報と警告を齎せたのは、かれらの（遣わされた）後、人々に、アッラーに対する論争がないようにするためである。アッラーは偉力ならびなく英明であられる」(婦人章第165節)



考えてみましょう

預言者たちはどのような事柄について吉報を伝え警告を発しましたか。

預言者たちは文明の導き手である

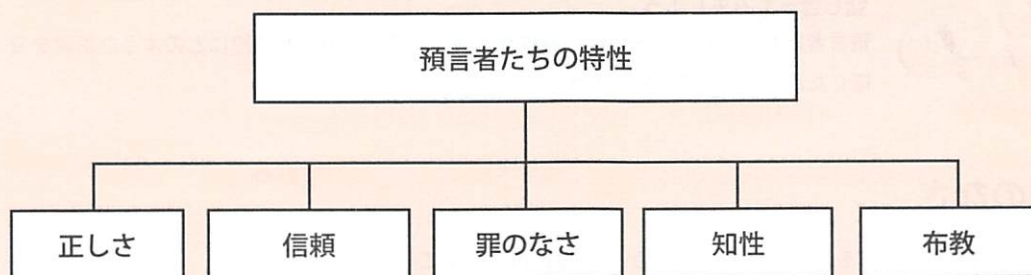
- 預言者たちは同時に文明の導き手でもあります。精神面同様、物質面でも人々を導きました。
- 人類のあらゆる側面を勘案した文明の歩みは、預言者たちのもたらした真正な知識によって実現してきました。
- 預言者たちは人々に道徳的原則をもたらし、文明に方向性を与えました。農業や工業、商業といった各種の職業に従事しながら、生き方においても人びとの模範とられました。
- 社会が健全で均衡のとれた形で文化、技術、文明を発展させてきたことにおいて預言者たちの果たしてきた役割は、歴史を通してしばしば目にすることができます。

2

預言者たちの特性

- クルアーンは、預言者たちが人間であるということを指摘しています。すなわち彼らもまた一人の人間であり、人間であるという点では一般の人びと同じであると明示しているのです。
- 彼らもまた日々を生き、外出し、働き、食べ、飲み、結婚し子供を設け、病気になり、そして亡くなります。
- アッラーの御前では、すべての人々と同様に義務や責任を負っています。預言者たちはアッラーが人々の中からお選びになり、啓示によって対話された特別な人たちなのです。
- この点において、他の人々とは異なる立場に高められ、優れた特質を身につけ、選ばれた模範となったのです。そうした立場ゆえに、預言者たちはそれぞれ特性を持たなければなりません。

預言者たちの特性として評価される性質は以下の通りです。



正しさ

- 正しくあるということです。預言者たちの最も重要な特性です。
- 預言者たちは皆、正しいことを話す人々でした。彼らは言葉も本質も正しい、誠実な人々でした。
- 彼らは預言者となる以前にも以後にも、決して嘘をつきませんでした。そして自らが属する社会の人々に、正しいことを話す人として知られていました。周囲の人々が預言者たちに「あなたは以前嘘をついたことがある」と言うことはありませんでした。
- 預言者たちはアッラーが教えられた命令や禁止事項を正しく、そのままの形で伝えました。
- 預言者たちは、アッラーがもたらされた道徳的な規範を自らの生き方に体現し、人々の模範となりました。
- 言葉と行動、人間関係、隣人関係、兄弟愛、友情、取引などにおいて正しさから逸れることはなく、人々から信頼を得ていました。



考えてみましょう

「本質と、話すことにおいて正しい」とはどのような意味でしょうか。

118

信頼

- 信頼できるということです。預言者たちは安心して信頼できる人々でした。
- 彼らは信託を裏切ることはありませんでした(イムラーン家章第161節参照)。彼らは信頼できる人々の中から選ばれ、その呼びかけにおいても信頼できる人でした。(相談章第107、125、143、162、178節参照)
- 預言者ムハンマドは、預言者となる以前にも社会で最も信頼される人であり、人々は彼をアミーーン(信頼できる人)と呼んでいました。



話し合ってみましょう

預言者たちの信頼できるという特性が、啓示が受け入れられる際にどのような影響を及ぼしたか話し合ってみましょう。

罪のなさ

- 罪のなさとは、罪を犯さないこと、罪から保護されていることを意味します。
- 預言者たちはその生涯のどの時期をとっても、多神教やイスラームの教えを否定するような罪を犯すことはなく、陰、日向を問わず故意に罪を犯したことは全くありませんでした。
- 預言者たちは時には小さな過ちと見なされる態度を取ることがありました。
- 罪の範疇には含まれず、ザッラと呼ばれるこの小さな過ちは、アッラーの警告によって即座に修正されました。

- 彼らはあらゆる点で模範とされる人々であり、この立場に反するような行動をとることはありませんでした。
- 預言者たちは受け取った啓示という信託を人々に届けることにおいて、アッラーから守られていました。

知性

- 頭が良く知的であることを意味します。
- 預言者たちは頭脳明晰、知的で、理解力が高く、よく考え慎重に行動する人々でした。
- 彼らはそうした特性を持って人々に説き、自らを信じさせていました。そして人々を闇から光へと導いたのです。
- 優れた、価値のある、そしてたいへん困難で重い責任を伴う預言者という務めは、このような能力を持った人のみが正しく実行することができます。
- クルアーンにはすべての預言者が頭脳明晰で、知的であることを示す言葉があります。(預言者章第51節参照)



119

布教

- 知らせる、伝えるという意味になります。
- 教えを伝えることは、預言者たちの本質的な任務です。
- 彼らは、アッラーから得た命令や禁止事項、ハラールやハラームについての知識を不足なく人々に伝えました。

「使徒よ、主からあなたに下された（凡ての）ものを、宣べ伝えなさい。あなたがそれをしないなら、かれの啓示を宣べ伝える使命は果せないであろう」(食卓章第67節)

クルアーンはすべての預言者を、教えを伝える人であると定義しています。(蜜蜂章第82節、御光章第54節参照)

3

預言者たちの役割



預言者たちの役割は、アッラーから下された啓示をそのままの形で人間に伝えることです(布教)。それを実行する際には、啓示をただ言葉で説明するのではなく、実践においても模範となりました。人々に警告し、また吉報を伝えることも布教の任務の一つです。

アッラーは人間への慈悲と恵みの要するところとして、人々の中の一人に預言者としての役割を与えられました。彼らの役割は人々をアッラーへと招くこと、悪いことから遠ざけること、善行へと導くことです。預言者たちは人を個人的、社会的次元でつまずきや憂鬱さ、嫌気といった状態に陥ることなく生きるための導きとなる原理を示したのです。

預言者たちの主な役割と責任を以下のようにまとめることができます。

- **ダアワ(呼びかけ)** 彼らの根本的な役割は、人々をタウヒード(唯一神信仰)へ、すなわち他の何者かをアッラーと同列に置くことなく、ひたすらアッラーを信じ、アッラーに仕えることへと招くことです。それに来世への信仰への呼びかけが続きます。なぜならこの二つの基本的な事柄を信じることは、社会における道徳的な逸脱をも防ぐものとなるからです。それ以外の基本的信条への呼びかけも、ダアワの本質に含まれます。
- **インザル(警告)** 人間の歴史において、いかなる集団であれアッラーによる警告を受けることなく放置されたことはなく、その警告を伝える役割を預言者たちが果たしてきました。すべての預言者は、人々にまず来世で直面する危機について警告を行うという務めを果たしました。預言者たちは、人々が態度を改めない限り直面するであろう現世と来世における危機について人々に告知し、警告を与えました。クルアーンでは、預言者ムハンマドに「立ち上って警告しなさい」(包る者章第2節)と呼びかけています。クルアーンは預言者たちの警告者としての役割を、その特性と共に示しています。(高壁章第184節、フード章第12節)預言者ムハンマドに関する章句では次のように語られています。「かれは厳しい懲罰の(下る)以前に、あなたがたに警告するに過ぎない」(サバア章第46節)



「わたしはあなたがたに、主の神託を宣べ伝え、また助言を呈する。わたしはあなたがたが知らないことを、アッラーから知るものである」(高壁章62節)

- **ベヤーン(説明)** 預言者たちは彼らもたらした基本的な信条について説明しました。彼らは啓示の言葉に秘められた意味合いや教えの規範を説き、その実践方法を示しました。例えば、クルアーンで言及されている礼拝、ザカート、ハッジといった概念の意味するところを、預言者ムハンマドが自らの言葉と行いで明らかにされています。こうして、クルアーンの教えを生活に活かすための具体的な模範であるスンナが成立したのです。



「われは明瞭な印と啓典とを、授け（てかれらを遣わし）た。われがあなたにこの訓戒を下したのは、且つて人びとに対し下されたものを、あなたに解明させるためである」（蜜蜂章第44節）

- 吉報を伝える 預言者たちは自らの呼びかけに応え、信仰し善行に励み、警告に耳を傾け自らを正そうとする人々に、アッラーのご満悦や現世と来世における幸福といった吉報をもたらしました。人々に正しく立派で価値のあるものを勧め、それを喜んで受け入れて実行するように励まし、自信を持たせるといふ点で、この吉報は重要な意味を持つものです。
- 預言者たちはそれぞれの任務を遂行し、人々の信頼を得て、自らのもとに人々が参集するようになりました。クルアーンは預言者たち一人ひとりを吉報を与える人と特徴づけていました。またクルアーンは預言者たちの、警告者であり吉報者であるという二つの役割に同時に言及し、その両者がバランスよくあらねばならないと説いています。（高壁章第188節、部族連合章第45節参照）



考えてみましょう

- 預言者たちは自らの属する社会の状況やそこにおいて求められていること、諸問題などをアッラーから得た啓示によって見極め、解決方法を示しました。
- 正しいことを示すために努力を傾け、態度や行いにおいて人生のあらゆる場面で人々の模範となったのでした。

4

奇蹟と驚異

預言者であることの証明

預言者であることを証明することは、何の疑念も残すことなく確定的な証拠を示すことにあります。この確定的な証拠は次の二つに分類することができます。

- 一つめは、感覚器官を通して見聞きすることのできる奇蹟です。これは預言者の時代に生きる人々に当てはまります。
- 二つめは、確定的な知識を示す、ムタワティル（誤謬があり得ないほど多数の人々が同じ証言をすること）を通して示される奇蹟です。預言者ムハンマドの最大の奇蹟であるクルアーンは、ムタワティルによって今日まで伝えられています。

奇蹟（ムジザ）

- ムジザという言葉は、通常では起こり得ないようなこと、絶大なこと、圧倒的なことといった意味を持ちます。
- 預言者たちが、預言者であることを示すためにアッラーの恵みによって行った、人々が同じようなことを行うのは不可能である超常的な出来事を奇蹟と呼びます。
- 預言者たちが、アッラーの恵みによって預言者であることを示すために行った奇蹟は、それらが預言者であることの証明として示されました。
- それゆえ人間の中では預言者たちだけが奇蹟（ムジザ）を行うことができます。
- 奇蹟（ムジザ）は、アッラーの創造により実現されますが、預言者たちを通して示されるため、それを預言者たちの奇蹟と呼びます。クルアーンでは預言者イブラーヒーム、預言者サーリフ、預言者ヤークブ（ヤコブ）、預言者ムーサー（モーセ）、預言者スライマーン、そして預言者イーサー（イエス）の奇蹟について述べられています。



考えてみましょう

預言者スライマーンの、クルアーンで語られている奇蹟とは何でしょうか。

122

驚異（カラーマ）

預言者たちと深く結びつき、預言者たちの言動に注意深く従い、それによってアッラーの友という状態に至った人々が、アッラーの援助によって示す超常的な事柄を驚異と呼びます。このような特性を持たない人々が示す超常的な事柄は驚異とは呼ばれません。

5

預言者たちの人生の描写

預言者イブラーヒームのアッラーへの探求

預言者イブラーヒーム（アブラハム）は子供の頃から、父親や近隣の人々が、自ら作った石像を崇拜していることに意味を見いだすことができませんでした。大人たちが石像を崇拜している光景を見るたびに、「この石がどうして私たちよりも優れているのだろう」と考えていました。子供ながらに、偶像を崇拜する大人を奇妙だと感じていました。

成長するに従って、人々の信仰に対する疑念が雪崩のように大きくなってきました。青年時代が終わる頃には、頭の中の疑問はますます大きくなっていきました。「これらは石でしかない。生命もなく、話すことも聞くことも見ることもできない。ただの硬い石。彫るだけで神になる。これはどうい

うことだろうか。これは神ではない。神は全く異なる存在であるべきだ。石や土や、木や、私たちが、周りにあるもののどれにも似ていない存在であるべきだ」

イブラーヒームの神についての疑問に、真の答えを得る時期が来ていました。実際その答えはすでに見つかっており、本人はそれと気づかぬままに、例を挙げながら人々に真の神について語っていたのです。

夜の闇が周囲を覆った頃、彼は頭上の夜空を見ていました。限りのない闇の海と、その闇の中に輝く星を見ました。星の中にひときわ明るく輝く星がありました。「見つけた」と彼は叫びました。星は天空はるかに輝いており、石のように暗く動かないものではなく、きらきらと輝いていました。やっと見つけた、と彼は喜びのうちに星を見つめていました。目をそらすことができずにいました。しかし日が昇ると星は消え、彼の心は痛みました。イブラーヒームは、「星は私の神ではあり得ない」と言いました。「私を残して去り、消えてしまう星は絶対に私の神ではない」



預言者イブラーヒームは、真の神を探し求めて見つける決意を固めました。真の神に出会うことができると心から信じていました。山や海、天空にそれを探していました。あるとき日が暮れ、悲しみに沈んで、もの思いにふけていました。そのとき満月が目に入りました。それは星よりもずっと大きく、もっと明るく輝いていました。「見つけた！ どうしてこれまで気がつかなかったのだろう。夜を照らすこの光、比類のないこの美しさ…」しかしその喜びはやはり短いものでした。

月がその姿を消すと、イブラーヒームのアッラーへの探求は再び始まりました。イブラーヒームは、月も神ではないことに気がつきました。このようにしてアッラーが彼に道を示してくださっていることに気づきとても喜びました。誤った考えに陥らず

に済んだことを感謝しました。

こうした探求を続けていたとき、太陽が注意を引きました。「光と熱の主であり、私と地上のすべてのものに生命を与え、穀物や野菜、果実を育て、世界を照らす神とはこれではないだろうか」と考えました。砂漠や、山々や、平原を眺めました。目を向けたすべての場所に、光があふれ、熱気を感じることができました。

しかし太陽もまた、昼間の役割を果たすと地平線に消えていってしまいました。イブラーヒームの探求はまだ続けられることになりました。「崇高なる主よ、太陽も神ではありませんでした。あなたは誰なののでしょうか。どこにおられるのでしょうか。あなたは消えてしまったり沈んだりする存在で

はありません。あなたは決して沈んだり、亡くなったりしない存在です。私とこの世界のすべてを創造されたお方です。すべてに対し十分な力を持っておられるお方です。私はあなたを見ることができません。しかしあなたはあらゆる場所におられるのです。あなたの存在が私の自我のすべてを包み込んでいます」

預言者イブラーヒームは、混乱していた考えが明確になり、問いの真の答えを見つけつつありました。その存在を心の深いところで感じ、アッラーに限りのない感謝をしていました。涙の中でアッラーに祈り、万物の主であるアッラーの御前で尽きることのない幸福を感じていました。

周囲の人々がイブラーヒームは誤った信仰を持っているのではないかとの疑問を抱いても、彼は正しいとの確信を抱いていました。満たされた気持ちで家に戻り、この幸福を皆と分かち合おうと思いました。(家畜章第74-78節参照)イブラーヒームは、この神を求める探索を次のような言葉で締めくくりました。



「わたしは天と地を創られた方にわたしの顔を向けて、純正に信仰します。わたしは多神教徒の仲間ではない」(家畜章第79節)

124



考えてみましょう

預言者イブラーヒームは、アッラーを見出したことをどのように語っていますか。

預言者ムーサーと同行者：英知

ユダヤの人々のムーサーに対する終わることのない反抗的な態度は、もはや彼に嫌気を生じさせ始めていました。あるとき共にいた若者に、旅に出たいとの思いを告げました。

「私は2つの海が会う所に行きつくまでは、何年かかって、(旅を)止やめないであろう」

このような旅の考えは、もちろん目的のないものではありませんでした。大切だと考える理由がありました。彼はいくつかの出来事の背後にある英知の覆いを取り除きたいと思っていました。預言者ムーサーはこれをアッラーに願い、アッラーもまたそれを許されたのでした。彼らは食べ物として一匹の魚を携え旅に出ました。二つの海の出会うところに着いたとき、彼らはそこに魚を置き忘れ、そのまま旅を続けました。ムーサーは若い同行者に、「わたしたちの朝食を出しなさい。わたしたちは、この旅で本当に疲れ果てた」と言いました。若者は、「わたしたちが岩の上で休んだ時、わたしはすっかりその魚(のこと)を忘れていました。これに就いて、(あなたに)告げることを忘れさせたのは、悪魔に違いありません。それは、海に道をとって逃げました。不思議なこともあるものです」と告げました。実際に若者は、その魚が海に飛び込んで泳いでいったのを見ていました。しかし非常に興味深いこの出来事を、ムーサーに話すのを忘れていたのです。ただ、ムーサーが求めていた

のはまさにこのような出来事でした。ムーサーが自らを英知の大海の中で泳がせてくれる人を見出す上でこの出来事は良い契機になるものでした。それゆえムーサーは若者に対して怒るのではなく、反対に喜んで「それこそ、私たちが探し求めていたものです」と言いました。

彼らは非常に疲れていましたが休むこともなく元の場所にまで戻りました。そのとき岩場には、アッラーの慈悲によって英知を授かったアッラーの友の一人であるしもべがいました。この人物はヒドゥルであると言われています。ムーサーはついに探し求めていた人を見つけ、そして尋ねました。

「あなたに師事させて下さい。あなたが授かっておられる正しい知識を、わたしに御教え下さい」

彼は答えて言いました。「あなたは、わたしと一緒に到底耐えられないであろう。あなたの分らないことに関して、どうしてあなたは耐えられようか」

ムーサーは、「もしアッラーが御好みになられるなら、わたしがよく忍び、また（どんな）事にも、あなたに背かないことが分りましょう」と言いました。男は、「もしあなたがわたしに師事するのなら、わたしがあなたに（何かとりたてて）言うまでは、何事に就いても、私に尋ねてはならない」と言いました。ムーサーとヒドゥルは合意して、旅に出ました。そして船に乗りましたが、ヒドゥルは乗った船に穴をあけました。「あなたがそれに穴を開けるのは、人びとを溺れさせるためですか。あなたは本当に嘆かわしいことをなさいました」とムーサーは言いました。ヒドゥルは、「あなたは、私と一緒に耐えられないと、告げなかったか」と言い、ムーサーは「わたしが忘れたことを責めないで下さい。また事を、難しくして悩ませないで下さい」と答えました。

二人は再び旅を続けました。そして一人の少年に出会いました。ヒドゥルはその少年ををその場で殺してしまいました。ムーサーは「あなたは、人を殺した訳でもない、罪もない人を殺されたのか。本当にあなたは、（かつて聞いたこともないような）惨いことをしたものです」と言いました。彼は「あなたは、わたしと一緒に耐えられないと、告げなかったか」と答え、ムーサーも「今後わたしが、何かに就いてあなたに尋ねたならば、わたしを道連れにしないで下さい。（既に）あなたはわたしからの御許しの願いを、（凡て）御受け入れ下さいました」と言いました。

二人は旅を続けました。そして旅の最後に小さな町に着きました。そこで彼らは食べ物を探しましたが、住民たちは彼らを客とすることを望みませんでした。そしてしばらくしたのち壊れかけた壁を見つけました。彼はすぐにその壁を修復しました。ムーサーは、「もしあなたが望んだならば、それに対してきっと報酬がとれたでしょう」と言いました。ヒドゥルは「これでわたしとあなたは御別れである。さて、あなたがよく耐えられなかったことに就いて説明してみよう。舟に就いていうと、それは海で働く或る貧乏人たちの所有であった。わたしがそれを役立たないようにしようとしたのは、かれらの背後に一人の王がいて、凡ての舟を強奪するためであった。男の子に就いていえば、かれの両親は信者であったが、わたしたちは、かれの反抗と不信心が、両親に累を及ぼすことを恐れたのである。それでわたしたちは、主がかれよりも優れた性質の、純潔でもっと孝行な（息子）を、かれら二人のために授けるよう願ったのである。あの壁は町の2人の幼い孤児のもので、その下には、かれらに帰属する財宝が埋めてあり、父親は正しい人物であった。それで主は、かれらが成年に達してから、その財宝をかれら二人のために掘り出すことを望まれた。（これは）主からの御恵みである。わたしが勝手に行ったことではなかったのだ。これがあなたの耐えられなかったことの説明である」と語りました。（洞窟章第60-82節参照）

ムーサーは、英知の海でのこの短い旅から、すべての出来事には神の定めに基づいた真実が隠されていることを知り、人々の元に戻ったのでした。



研究してみましょう

預言者ムーサーと同行者の間に起こった出来事を評価してみましょう。

預言者アイユーブ：忍耐の模範

アッラーはクルアーンで、預言者アイユーブを忍耐深いしもべとして紹介し、その点から彼を人々の模範として示しています。

「われは、かれが良く耐え忍ぶことを知った。何と優れたしもべではないか。かれは（主の命令に服して）常に（われの許に）帰った」（サード章第44節）

彼は身に降りかかったあらゆる困難を耐え忍び、何事につけても忍耐を示し、決して不平を言うことはありませんでした。

アイユーブの名を聞くと最初に思い起こされるのが彼の病と忍耐についてです。彼はあらゆる苦しみを、預言者としての年月のうちに味わいました。クルアーンは、彼の発病とそれに対する忍耐を次のように描写しています。

「またアイユーブ（に英知と判断力を授けた）。かれは主に呼びかけた。「本当に災厄がわたしに降りかかりました。だがあなたは、慈悲深いうえにも慈悲深い方であられます」（預言者章第83節）

彼は病にひどく苦しめられていました。しかしクルアーンがそこで示そうとしているのは、彼が何の病気にどのようにかかったかという点ではありません。それは彼の忍耐についてです。彼の病について醜く誇張して説明されているものが事実ではないことを、ここで指摘しておくべきでしょう。

アイユーブは病からの救いを、ただアッラーに向かい求めました。そしてアッラーもそのドゥアーを受け入れられたのでした。「それでわれはこれにこたえて、かれに取り付いた災厄を除き、かれに家族を授け、その人々を倍加した」（預言者章第84節）

クルアーンでは、アイユーブがどのようにして病から救われたかを、次のように描いています。

「（すると命令が下った。）『あなたの足で（大地を）踏みなさい。そこには清涼な沐浴と飲料のための（水）があろう。』われは慈悲として、かれに（再び）家族を2倍にして授け、思慮ある者への教訓とした」（サード章第42-43節）

アイユーブは信仰と忍耐という報奨を得て、救いに至ることができました。彼は試練を乗り越え、吉報を得ることができたのです。（雌牛章第153-154節参照）



考えてみましょう

忍耐はなぜ、最も有効なドゥアーなのでしょう。

アイユーブの病気は人々の間でどのように語られたのでしょうか。それらが真実ではないことについて考察してみましょう。

預言者ユースフ：愛情の模範

クルアーンでは、預言者ユースフの人生の物語が独立した章として多角的に説明されています。そしてそれがクルアーンの中で最も美しい物語であるとしています。(ユースフ章第2節参照) それらの中でも特に、子供と兄弟への愛情にまつわる例が注意を引くものです。子供への愛情という、まずユースフの父ヤークブが思い起こされます。彼の愛すべき息子ユースフへの愛着は人々の間でもよく語り継がれています。預言者ヤークブには12人の息子がいて、下の2人が預言者ユースフとブンヤミンでした。

ヤークブの試練は、子供を失った痛みと子供による裏切りによるものでした。彼はユースフを思うあまり、泣き過ぎて目を病むほどでした。悲しみを内に秘め、誰にもそれを打ち明けることはありませんでした。ただアッラーにだけその悲しみを訴え、懇願しました。彼は子供に再びめぐり会えるという希望を決して失いませんでした。忍耐強く、希望を失うことなく待っていました。そしてついに愛する息子と再会することができたのです。



研究してみましょう

ユースフは夢で何を見たのでしょうか。父ヤークブの試練と忍耐はどのようなものだったのでしょうか。クルアーンの中から見つけてみてください。

預言者ヤークブのユースフへの愛情は、他の子供たちを激しく嫉妬させることになりました。それはユースフを殺そうという計画を立てるほど深い嫉妬でした。ユースフが死ねば、父の愛が自分たちに向けられると考えたのです。



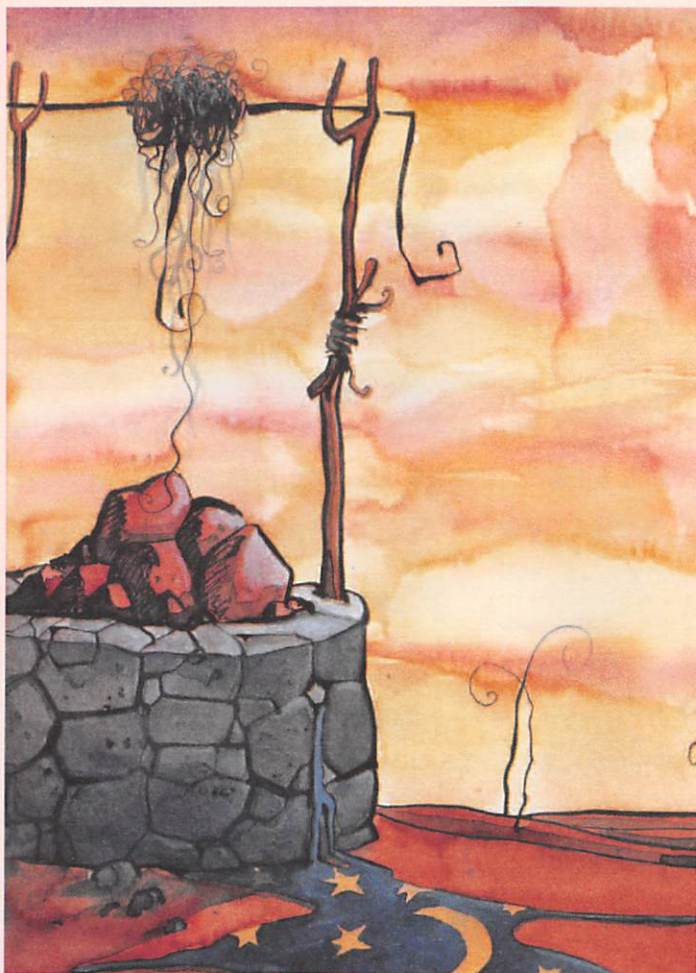
研究してみましょう

兄弟たちはユースフにどのような罫を仕掛け、父には何と説明しましたか。この出来事を説明している章句を読み、考察してみてください。

ヤークブは息子たちの話に騙されることはありませんでした。一方で息子たちの企てに対し厳しい態度を取ったり責めたりすることもありませんでした。息子たちには次のように告げたのです。

「いや、いや、あなたがたが自分たちのために（大変なことを安易に考えて）、こんなことしたのである。それで（わたしとしては）耐え忍ぶのが美徳だ。あなたがたの述べることに就いては、（只）アッラーに御助けを御願いする」。なぜなら彼らもまた、ヤークブの子供だったからです。当然彼らもまた父親の愛情を必要としていました。ヤークブがユースフを大切にすることには別の理由がありました。それはユースフが将来預言者となる子供だったからです。しかし兄弟たちはそのことを知りませんでした。振る舞いだけを見て、父親が自分たちを十分に愛していないと感じていたのです。

エジプトの一方で飢饉が7年間続いた頃でした。各地からキャラバンが食糧を求めてエジプトにやってきていました。ユースフは国庫の責任者という高官の位についていました。ユースフの兄たち



も、これらのキャラバンと共にエジプトを訪れ、ユースフに会いました。

ユースフは兄たちに、「あなたがたはわたしのこの下着を持って（帰り）、わたしの父の顔に投げかけなさい。かれは眼が見えるようになる。それからあなたがたは、家族揃ってわたしの処に来なさい」と言いました。キャラバンがエジプトから本国に戻ろうとしていたとき、ヤークブは息子たちに「わたしは確かにユースフの匂を嗅いだ。だがあなたがたは、老衰のせいだと思うであろう」と言いました。（ユースフ章第93-95節参照）

「それから吉報を伝える者が（帰って）来て、（下着を）

かれの顔に投げかけると、直かれは視力を回復した。かれは言った。『わたしはあなたがたに言わなかったか。あなたがたが知らないことを、わたしはアッラーから（の啓示で）知っている。』かれらは言った。『父よ、わたしたちのために、罪の御赦しを祈って下さい。わたしたちは本当に罪深い者でした。』かれは言った。『それではわたしはあなたがたのため、わが主に御赦しを願ってやろう。本当にかれは、寛容で慈悲深くあられる。』」（ユースフ章第96-98節）

ヤークブは家族と共にエジプトに行きユースフに会いました。ユースフは両親を高座に上らせました。すると一同は彼にひれ伏しました。するとユースフは言いました。「わたしの父よ、これが往年のわたしの夢の解釈です。わが主は、それを真実になさいました。」（ユースフ章第99-100節）

預言者ユースフの物語の最も重要なテーマが父の子供への愛情です。兄弟間の愛情についても重点が置かれています。彼らは激しく嫉妬したにもかかわらずユースフの命を奪うことはできず、後に深く後悔し謝罪しています。子供の父親への愛情と、子供が愛情を必要としていることも、行間から読み取れます。

ここではユースフの例を通して家族愛、家族の絆が主に説かれています。愛情の中で最も崇高なアッラーへの愛情には、すべての愛情のための位置があります。ただ、他のものへの愛情が、アッラーへの愛情にとって替わろうとしない限りは。

預言者ユーヌス：役割と責任への意識

預言者ユーヌスは、無信仰で粗野で偶像崇拜を行うニノヴァの人々への預言者として遣わされました。すべての預言者と同様、優れた模範的な人格を備えていました。クルアーンには彼の名の章があります。ユーヌスはその民を、アッラーへの信仰へと導きました。そして33年の間でわずか2人が、イスラームを受け入れたのでした。

その結果は彼にとってたいへんつらいものでした。彼は悲しみと怒りのうちにニノヴァを去りました。それは任務や責任の放棄ではなく、また反抗からのものでもありませんでした。あらゆる努力を傾けたにもかかわらず、彼の呼びかけに耳を貸さない無関心な人々から遠ざかりたくなっていたのでした。

ユーヌスは、自らを嘘つきと呼んだがゆえに、3日後にアッラーの罰が下るであろうとニノヴァの人々に告げ、その3日が過ぎる前に町を離れました。人々は実際に自分たちに罰が下されるとわかると恐怖に駆られてユーヌスを探し始めました。

ユーヌスを見つけることができなかったので、人々は子供たちや家畜を連れて町を離れ、砂漠に向かいました。そして彼らは悔い改めました。アッラーは彼らを憐れに思われ、罰を与えられませんでした。しかしこの焦った行為が誤りであることにユーヌスは気づきました。ユーヌスは、自分がアッラーの許可なくこのようなことを行ったがゆえに自分が間違っていると感じ、自分を責めていました。ユーヌスの心からのドゥアーとアッラーによる受け入れは、クルアーンで次のように描かれています。

「あなたの外に神はありません。あなたの栄光を讃えます。本当にわたしは不義な者でしたと叫んだ。それでわれはかれにゆえ、かれをその苦難から救った。われはこのように、信仰する者を救助するのである」(預言者章第87-88節)



考えてみましょう

預言者ユーヌスはなぜズン・ヌーン(魚の持ち主)と呼ばれているのでしょうか。

自らの役割と責任への意識は、ユーヌスを再びニノヴァの町に立ち帰らせました。そしてユーヌスはそれ以後の人生を、かつて放置した人々を信仰へと導くために費やしたのでした。なぜなら彼はまだ、役割を果たすことも、責任を正しく果たすこともできてはいなかったからです。もはや彼は以前よりもなお、自分の役割を懸命に果たそうとしていました。そして彼の不屈の、強い決意と忍耐を伴った努力は、ついに実を結ぶときが来たのでした。

結果として人々は教えへの憎悪や粗野な振る舞いを放棄し、信仰の確かな信頼できる道を選び、救いへと至ったのでした。(整列者章第148節参照)



考えてみましょう

上に述べた預言者ユーヌスの振る舞いについて、役割と責任への意識の点から評価してみてください。

預言者イーサー：その人柄と預言者ムハンマドについての吉報

アッラーはクルアーンで、預言者イーサーの生涯と、その役割を果たす際に直面した困難について語り、彼を称賛しています。すべての預言者と同様、イーサーもまた人々を救いその幸福を実現するためにたび重なる苦難に耐えたのでした。イーサーに忍耐力や闘う力を与えたのは彼の心に宿る深い愛情でした。この愛情は、愛される人々のために犠牲を払い、愛情が負う責任を果たすことを必要とします。

マリヤムの息子イーサーは、人々がいつか真実を見出すという信念を決して失うことなく、彼らの救いのために祈っていました。

イーサーが預言者になると、啓典であるインジール(新約聖書)が下されました。彼は人々を正しい道に招き、素晴らしい忠言を与え、大きな奇蹟を示しました。こうしたイーサーの行いに対し、人々は彼が嘘を言っていると非難し彼を殺害しようとさえしました。しかしアッラーは彼らのこの醜い計画を無きものとされました。(イムラーン家章第54-55節参照)

イーサーのあらゆる努力にもかかわらず、彼を信じたのはわずかな人々にすぎませんでした。それについてクルアーンでは次のように描かれています。「イーサーは、かれらが信じないのを察知して、言った。『アッラー(の道)のために、わたしを助ける者は誰か。』弟子たちは言った。『わたしたちは、アッラー(の道)の援助者です。わたしたちはアッラーを信じます。わたしたちがムスリムであることの証人となって下さい』」(イムラーン家章第52節)この弟子の数は、12人であることが知られています。

アッラーが審判の日にイーサーと話されたことを語る章句では、イーサーを信じた人々が彼の死後に陥った誤った信条について問いかけられています。(食卓章第116-117節参照)

この問いへのイーサーの答えは、彼の愛情の深さを示すという点でたいへん注意を引くものです。「あなたが仮令かれらを罰せられても、誠にかれらはあなたのしもべです。またあなたがかれらを御赦しなされても、本当にあなたこそは、偉力ならびなく英明であられます」(食卓章第118節)



考えてみましょう

下記の章句では、預言者イーサーが人間に何を吉報として伝えているのでしょうか。

預言者イーサーは過去において旧約聖書を正したように、未来についても人類に最大の吉報をもたらしました。「マリヤムの子イーサーが、こう言った時を思い起せ。『イスラエルの子孫たちよ、本当にわたしは、あなたがたに(遣わされた)アッラーの使徒で、わたしより以前に、(下されている)律法を確証し、またわたしの後に来る使徒の吉報を与える。その名前は、アハマドである。』だがかれが明証をもって現れた時、かれらは、『これは明らかに魔術である。』と言った」(戦列章第6節)

預言者ムハンマドは預言者イーサーについて次のように語っていました。

「私は人間のうち、現世と来世においてマリヤムの子イーサーに最も近い者である」(ブハーリー、預言者48)

「私とイーサーの間には一人の預言者もいない」(ブハーリー、預言者48)



単元のまとめ



アッラーと人間との間で使者の役割を果たすものを預言者と言います。預言者への信仰は、アッラーが人間たちの中から預言者として選ばれた人々を正当に評価し、彼らがアッラーから得て私たちに伝えるすべての知識が正しく真実であることを認めることです。

人間は理性によってアッラーの存在、その唯一性と崇高さを知ることができます。しかしそのことについて、預言者たちが啓示で教えたような知識を得ることはできません。アッラーにどのように崇拜行為を行うか、そして来世に関する事柄について、人は理性によって正しく知ることができません。

預言者たちは、人々が正しく益のあるものを見つけ、善悪を区別し、道徳的な成熟に到達するために道を示します。預言者たちは自らの属する社会の状況やそこで求められていること、諸問題をアッラーから得た啓示によって見極め、解決方法を示しました。正しいものを示す努力を怠ることなく、態度や行動において人生のあらゆる場面で人々の模範となったのです。

預言者であることを証明することは、何の疑念も残すことなく確定的な証拠を示すことで可能となります。この確定的な証拠は、次の二つの形で可能となります。一つめは、感覚器官を通して見聞きすることのできる奇蹟です。これは預言者の時代に生きる人々に当てはまります。二つめは、確定的な知識を示すムタワール（誤謬があり得ないほど多数の人々が同じことを証言すること）を通して示される奇蹟です。預言者ムハンマドの最大の奇蹟であるクルアーンは、ムタワールによって私たちにまで届けられています。

預言者たちと深く結びついており、その言動に注意深く従い、それによってアッラーの友という状態に至った人々が、アッラーの援助によって示す超常的な事柄を驚異と呼びます。このような特性を持たない人々が示す超常的な事柄は、驚異とは呼ばれません。

クルアーンは何人かの預言者の生涯から例を示し、彼らの特徴の一つを取り上げています。イブラヒームはアッラーへの探求により、ムーサーは同行者とその英知に満ちた行動の意味付けによって紹介されています。アイユーブは忍耐の象徴として示されています。彼の病に対する忍耐は模範的な行動です。ユースフの物語は、最初から最後まで愛情の模範として示されています。ユースフの役割や責任への意識は、彼の任務を成功に導きました。イーサーはその人格によって模範となりました。そして預言者ムハンマドが最後の預言者として人類に遣わされるという吉報をもたらしました。



単元の確認



1. 預言者の役割について説明してください。
2. 人間はなぜ預言者を必要としているのでしょうか。説明してください。
3. 預言者に存在する特性を挙げ、それについて説明してください。
4. 奇蹟とは何でしょうか。誰が奇蹟を起こすことができるのでしょうか。
5. 驚異とは何でしょうか。奇蹟との違いは何でしょうか。
6. クルアーンで描かれている預言者たちがどのような特性と共に紹介されているか説明してください。



確認のための質問



1. ヌブーフという概念の意味は下記の項目の中でどれでしょうか。

- A) イマーム B) 予言者 C) 知識人
D) 預言者 E) 媒介者

2. ムジザ（奇蹟）は、下記の中の誰と関係があるでしょうか。

- A) 預言者たち B) 忠実に従う人たち C) 聖人たち
D) 教友たち E) 殉教者たち

3. 忍耐は下記の預言者たちの誰と同化されていますか。

- A) 預言者ムーサー B) 預言者アイユーブ C) 預言者イーサー
D) 預言者ユーヌス E) 預言者ヌーフ

4. 下記の項目の中でどれが預言者たちの特質ではないでしょうか。

- A) 正しさ B) 信頼性 C) 芸術性
D) 知性 E) 布教

5. 預言者に関するものとして下記の表現のうち間違っているものはどれでしょうか。

- A) 預言者たちは、アッラーが選ばれて任務に就かせられた人々である。
B) 預言者たちは、その行動によって人間の模範となる人々である。
C) 預言者たちは、自らの集団の言葉で啓示をもたらす人々である。
D) 預言者たちは、天使たちの中から選ばれている。
E) 預言者たちは、アッラーから受け取った啓示をそのままの形で人々に伝える人々である。